

令和4年度（2022年度）第3回北区まちづくり懇話会 会議録

【日 時】 令和5年（2023年）3月1日（水）午後3時～午後4時30分

【場 所】 北区役所2階第2・3・4会議室およびTeamsテレビ会議

【出席委員（敬称略、五十音順）】

浅井賢一、荒木善光、白石幸春、高木昭憲、戸野口庄子、中島利勝、
野原真藏、福田豊子、丸山泰、山崎雄三、吉村明儀 以上、11名

【傍 聴】 0名

【会議次第】

1 開会

2 会長挨拶

3 説明事項

・第2回北区まちづくり懇話会の補足説明について 資料1

4 意見交換 資料2

(1) 北区まちづくり検証資料（案）に対する懇話会委員からの意見について

(2) 第5期北区まちづくり懇話会から北区への提案

(3) スケジュールについて

5 閉会

1 開会

2 会長挨拶

(丸山会長)

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、第 3 回目ということですが、第 1 回目は年末に動画を見ながら書面で意見を出して開催、第 2 回ではビジョンの検証資料に沿って一つ一つ検証を行ってきました。

第 2 回の懇話会では、皆様から活発な意見交換をしていただきましたが、懇話会の意見を事務局で整理いただいた内容に加え、この懇話会から区に対し提案をまとめるという会にしたいと考えています。提案については、私と荒木副会長で事前にまとめているのですが、それに対して委員の皆様から意見をいただきながら、修正や追加を行うなどして、提案としてまとめていきたいと考えています。ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

3 説明事項

・第 2 回北区まちづくり懇話会の補足説明について

資料 1 に沿って事務局より説明

(丸山会長)

- ・区バスということであるが、他の 4 区も運行があったのか。また、廃止されたゆうゆうバスについては、収支率からいっても、今後路線が復活する見込みはないか。
- ・区バスについては、全体で見直し、コミュニティ交通に移っているという考え方になるのか。

(事務局)

- ・区バスについては、中央区以外の 4 区で平成 24 年度に運行を開始したが、平成 27 年度以降も継続しているバスは植木循環ルートのみとなっている。また、廃止になったゆうゆうバスの復活は現在のところない。
- ・平成 25 年に熊本市公共交通基本条例が制定され、交通不便地域等の定義がなされたことで、地域の状況に応じたコミュニティ交通の運行が開始されている。

(丸山会長)

- ・北区におけるコミュニティ交通について、今後新たに取り組もうというもの

があるか。

(北区長)

- ・南区にて試験的ではあるが AI デマンドタクシーを行っており、無料期間が終了し、現在は有料になったところ。また、検証を行っているところである。移動円滑推進課での検証を受けて、効果的ということであれば、全区に広げていくというような話も聞いている。

(丸山会長)

- ・これまでの話をまとめると、ゆうゆうバスそのものがということではなく、区民の皆さんの交通の便を良くするために、以前を振り返りつつ、今後もどんどんチャレンジをしていくという観点で、ご報告いただいたのかと思う。
- ・ゆうゆうバスは収支の問題もあり運行できない結果となってしまったが、まだ課題が解消されていないものもあると思うので、解決に向けて次の 10 年に挑戦していただければと思う。

(中島委員)

- ・利用者側からいうと、ゆうゆうバスはどんな目的だったのだろうか。事前に調査ができていたのか。
- ・買物用のバスで言えば、移動販売車がうまくいっている地域もあると聞いている。このあたりはどうか。

(事務局)

- ・ゆうゆうバスについては、区役所や総合出張所で行う手続きのための利便性を最優先するという目的で導入したところ。ただ、実際に運行を開始すると、行政での手続きよりも頻度の高い買物や通院に利用できればよかったが、そうではなかったということかと思う。
- ・現在の検討のポイントとしては、市民のニーズに沿ったコミュニティ交通のあり方が検討されているかと思う。

(白石委員)

- ・ゆうゆうバスが運行していた当時、区役所や総合出張所に行くために利用するという感覚はあったが、買物や通院で利用する感覚が市民にはなかったのだと思う。
- ・また、当時はもう少し地域に入って利用を呼び掛けたりニーズを捉えたりというのも自分自身必要だったのかとも思う。

- ・交通は交流だということで、事務局より説明があったが、具体的なイメージはあるか。

(事務局)

- ・前回の懇話会の意見交換であったように、交通が単なる移動手段ではなくて、交通という手段が人と人とをつなげる、交通手段の利用によって健康につながる、楽しみや喜びが増えるといった観点は、私たちにとっても新たな視点であったところ。この点を今回、交通が交流という形で紹介させていただいた。
- ・このような視点も踏まえて、北区では交通における新しい施策につなげていきたいと考えているところ。

(福田委員)

- ・交通の空白地域に住んでいるが、交通に関しては特に区民のニーズを捉えて生かしていただきたい。

(丸山会長)

- ・交通については、交流という視点に立つことによって、携わる部署も変わってくるかと思う。
- ・以前は、区役所中心の交通の考え方であったと思うが、今後は区民における「生活の交流」という視点で交通をどう捉えるかということで、新たな見え方も出てくるのではないかと思う。

4 意見交換

・・・・・・資料2

- (1) 北区まちづくり検証資料（案）に対する懇話会委員からの意見について
- (2) 第5期北区まちづくり懇話会から北区への提案

資料2に沿って、(1)は事務局より説明、(2)は丸山会長より説明。

(白石委員)

- ・資料2) P.46の課題の3つはどこから出てきたのか。

(事務局)

- ・第1回の書面開催時のご意見、第2回開催時の意見交換を参考にしている。書面にて多く出たご意見や意見交換で中心となった内容をまとめると、この3つの柱に整理された。

(白石委員)

- 大きな話だなとは思っているものの、現状を理解する上で縦軸と横軸を整理すると、このような大きな要素になるということなのだろう。

(吉村委員)

- まちづくりに若者をもっと取り込んでほしい。今後 10 年ではどうしたらもっと若者がまちづくりに参画できるかということにも取り組んでいくべきで、その視点を入れてほしいと思う。

(中島委員)

- 北区大賞を作ったらどうかと思っていたら、つい最近、北区地域活性化動画コンテストがあって、高平台校区も受賞したところ。北区での取組に関しては、北区のシンボルとしてのイベントがあるといいなと思っている。瞬間的に人を集めるイベントでもいいと思うし、北区ならではのもので、できれば継続していけるものがあるといい。特に、健康、安全において何かできないかといつも考えている。
- 私の地域では、高齢者 2, 30 人が遊水地公園で 1 年中ラジオ体操をしている。継続することで、人が集まり、人の輪ができ、仲良くなり、元気になる循環ができると思う。
- まちづくりに若い人を取り込みたいので、若い人が集まる何かが欲しいと考えている。
- 自身の携わる体育協会でもコロナでイベントができずに困っていたが、リモートで行ったものもあった。自分たちも変化しないといけないと思った 3 年間だった。イベントについては、デザイナー、イベントプランナーといったプロの意識や力を借りながらするのも一つの手だと思う。

(丸山会長)

- 交流、情報発信、地域資源の視点でイベントをするのも一つの手かもしれない。
- 区長と地域の対話としているが、地域だけく、区長と若者との対話、区長と高齢世代との対話など、横を含めて対話の方法の検討もあるかと思う。

(白石委員)

- この懇話会のまとめするにあたって、区に提言することだが、ビジョン策定時のキーワードに「協働」があるかと思う。区民と区役所が協働でということであったと思うが、協働で何ができたかという視点でいうと、協働がうまくいったとか、課題があるとかそういったまとめがないと感じた。

(丸山会長)

- そのような協働に関する課題が「交流」という部分に現れているのではないかなと思う。区の中での交流ができていないから、地域力に生かせていないということかもしれない。交流を高めることによって協働が進むということでもあると思う。北区だけでなく、市で、区で、地域で、協働は大きな課題だと思うが、まずはその一歩として交流であると考えている。

(白石委員)

- 資料 2) P. 46 に今後の方向性として 3 つあるが、P. 47 では地域の個別化、個性化ということになっている。P. 46 は北区全体の大きな方向性あるのに対し、P. 47 になると地域別で、P. 46 と P. 47 でギャップを感じる。
- 10 年間の最後の 3 年は空白の 3 年間であると思う。一体感の醸成はそれなりに評価できたというが、そのようにズバッと言っていいのか。この 3 年間でとても残念だったので、特にそのように思う。

(丸山会長)

- 北区全体の魅力をアップさせるには、個々の魅力アップが必要であると思っている。人口が減少し、高齢化、少子化が進んでいく中で、地域それぞれの力が弱まっていく可能性もあるかなと思う。そのような中、地域を強くすることで、全体の力を強くしていくことができると思う。個を高めることで全体の力を強くし、一体感、協働性を向上させていくという表現に変えたいと思う。
- 分解して個々の力を高めれば良いというわけではなく、北区として全体の力を高めるために、きめ細かなサービスを徹底していかなければならないという認識。
- これらができれば、北区として、情報発信や協働によりもっと何かをつなげていくということになるのだと思う。

(白石委員)

- 資料 2) P. 47 での区長と地域の対話だが、トップでないといけないわけではないと思う。地域の輝きを出す、広げるということについては、区長よりもまちづくりセンターの方が地域に近く、もっと地域の情報を全体に広げていけるのではないかな。

(丸山会長)

- 個の力を高めるための情報収集や区長との対話について、まちづくりセンターが中心になると考えている。

- ・一方で、そういった場にトップが出ることも大事だと思う。リーダーシップとして出ていき、区長、区として地域と対話する。メッセージ力としては、トップが出ていくことが大事だと考えている。

(白石委員)

- ・トップが自らという考え方も大事だが、具体的なところ、身近なところについては、まちづくりセンターによる地域の活性化を打ち出すことが大事ではないかと思っている。

(丸山会長)

- ・まちづくりセンターができて、地域との交流が活性化されてという前提で、今回の提案という形である。むしろ、まちづくりセンターができたから、個を強くしていくという発想につながっている。

(白石委員)

- ・10 年前に策定されたまちづくりビジョンにおける基本方針で、区民と行政が協働で進める取組事例がある。資料 2) P. 41～44 では地域ごとの意見聴取の内容があるものの、10 年前のことは本当に見えているのか、住民から聞いているのかといったような内容である。もう一度見ていただいて、住民の気持ちをトップに伝えていただきたいと思います。

(丸山会長)

- ・今回事務局で検証作業を進め、検証資料としてまとめられた中で、委員の皆様にとって十分ではないと感じられる部分があるかもしれない。ただ、懇話会としてもこの 3 回の開催で動画を見て書面で意見を出し、これまでの評価について意見交換を行ってきた。もちろんうまくいっていないと思う部分については、それを今後取り組んでいくことに含めていってもらいたいということだと思う。

(野原委員)

- ・10 年前のことを振り返り今後を考える中では、やはり前向きな気持ちでいきたい。

(山崎委員)

- ・若い世代の参画についてであるが、前回の懇話会で、近隣市町に引っ越す若い世代が多いという話をした。その一方で異次元の子育て支援もでてきている。

自身が懇話会委員となって、北区にこんなに多くの取組がされていることを知り、学んだ。知っていたら、もっと北区に魅力を感じていたのにも思った。

- ・資料 2) P. 47 にある「その地域に住んでいてよかったと思える北区へ」というように、住めば都ということもあるかとは思ふ。しかし、今回の提案（素案）の中には、「他の地域から見ても住みたくなる北区」という気概がないといけないと思った。現状のニーズを吸い上げ、今後に生かすという中では、他地域から見た北区の魅力という視点も入れていただければと思う。

（丸山会長）

- ・この後、事務局からも説明があるかと思うが、10 年間を振り返り、懇話会からの提案もあり、来年度以降新しい北区の方向性を策定することとなる。具体的な施策については、来年度意見交換をすることになるかと思う。今後、意見交換をする上での考え方、また我々の願いとして、今の意見のような「他地域から見た北区の魅力」といった視点は盛り込んでいきたいと思う。

（戸野口委員）

- ・懇話会が何かということ意識して活動しているが、区役所がこんなことをやっていることを周りに話すと、皆さん感心される。区のまちづくり懇話会がこうやって意見交換してやっていることをもっと知ってほしい。何をやっているかを知らせていくことが大事だと思う。
- ・中島委員、吉村委員が言われたように、若い人が出てきて自分たちで自発的に発想して何かを立ち上げるということが大事だし、そういった若い人を支える、見守る周りも大事だと思う。

（丸山会長）

- ・今回書面開催の際に動画を作成していただいたが、とてもわかりやすかったと思う。懇話会や区が何をしているかということについては、今後もこのような形で区民に見てもらい、意見をもらうのも一つの手だと思っている。
- ・検証を行って、来年度は次の北区の方向性を考え、策定すると聞いている。ビジョン検証をして、こんなことを次に考えなければいけないというのを投げた中で、区民の皆さんからも意見をどんどんいただく場というのを作っていくのも大事なポイントだと思っている。

（浅井委員）

- ・若い人が何かをやる場ということであるが、北部地域では市 PT バレーをやっていた人たちが自分たちでメンバーを寄せて 25 チームほど作っている。自分

たちで〇〇カップと名付けており、そういった活動を生かして北区カップなり区長カップなりを開催する、またはそのような活動に対して会場使用料の減免なりをしていただくと、地域の交流が広がり、盛り上がると思う。

(丸山会長)

- ・地域ですでにやっていることを掘り起こして生かしていける環境になると良いと思う。

(中島委員)

- ・まちづくりの後継者というのは重みがあると思う。そういったところで、私自身はハードルを下げるということを意識して活動している。子ども会も子どもが5・6年生になると親は役員をさせられるので、どんどん抜けていく。校区に14町内の自治会がある中で、子ども会があるのは5町内。会を担うことのプレッシャーから皆さん辞めていく。後継者というのはキーワードだと思うが、後継者というのが重みにならないように、ハードルを低く、かつ、やっていることが楽しいと思えるようにならないかなと思っている。

(荒木副会長)

- ・各地域や区の良さを引き出すということで、地域別のまちづくりの方針に対する評価を挙げていただいている。資料 2) P. 41～44 にある各地域からの評価では、基本方針 3 がどの地域を見ても改善分野となっている。区としての取組について P. 28～30 で見ると、こどもまつりと野菜摂取促進事業の2つとなっている。このような点を踏まえると、各地域の良さを引き出すためには、区に上がってこないような、まちづくりセンターで収集できるようなイベント等の評価も今後はポイントになってくるのではと思う。
- ・一方で、各地域で検討するものの、地域ごとだけで解決できない問題が出てくると思う。そういった課題や、逆に全体でやっているものの校区単位でやっていった方がいいと落とし込んでいくものも、きちんと検討していった方がいいと思った。

(丸山会長)

- ・今回の意見交換では、各地域だけでなく区全体も大事であるということ、若者世代への注目といったことがあったので、事務局と相談して加筆修正をし、書面で確認いただいた上で、最終的に区へ提案したいと思う。

(3) スケジュールについて

資料 2 に沿って、事務局より説明。

5 閉会

(区長挨拶)

丸山会長、荒木副会長をはじめ、委員各位におかれましては、第 5 期北区まちづくり懇話会委員として、これまで多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。

また、委員をお引き受けいただいたにも関わらず、任期前半では懇話会を開催できない時期も続き、誠に申し訳ございませんでした。

そのような状況にも関わらず、書面、対面での開催において、皆様から多くのご意見をいただき、改めて感謝申し上げる次第です。

今回、懇話会から提案をいただいた内容であります、「個、地域の良さを引き出す」ということでありますが、地域別のカルテというような地域、校区の情報を整理分析しながら、その地域の課題に応じたまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

これまでの懇話会でもご紹介した内容であります、北区というのは、5 区の中でも地域活動に参加する市民の割合が高い区であり、自主自立のまちづくりが他の区よりは進んでいるのかなと私自身は思っております。

また、今回のビジョン検証で地域ヒアリングをする中において、ある校区の自治協議会の会長から、「個人でいうと参加割合は 40%程度かもしれないが、家族の誰かが地域活動に参加していると捉え、世帯で考えれば 9 割を超えるのではないか」といった声もいただいているところです。市民アンケートというのは個人を対象に行っているが、世帯員が多いような地域では、この考え方はとても理にかなっているのかなとも思いました。

また、政府からの発表であったように、年間出生数が 80 万人を下回るような状況となっています。当初は 8 年後くらいに 80 万人を下回る予想であったにも関わらず、急速に少子化が進んでいるということになります。懇話会の中でも若者を取り込もうという話がありました。

私自身、年頭の挨拶の中で、「まちづくりに子どもを参画してほしい」「子どもが参画したまちづくりを推進していきたい」と述べ、新聞にも掲載いただいたところです。ですので、子どもの意見を取り入れ、できればそこで子どもたちへの小さな成功体験ができることで、北区は子どもにターゲットにしてやっているのだなと他区から見てもらったり、近隣市町からも一目置かれる形になればと思っています。

来年度からの 2 年間は第 6 期北区まちづくり懇話会となりますが、皆様方に

は引き続き専門的見地からのご意見をいただく形でお願いできればと考えております。

結びに、委員各位におかれましては、第5期北区まちづくり懇話会委員として、これまでのご協力に重ねて感謝申し上げますとともに、今後ますますのご健勝を祈念申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。